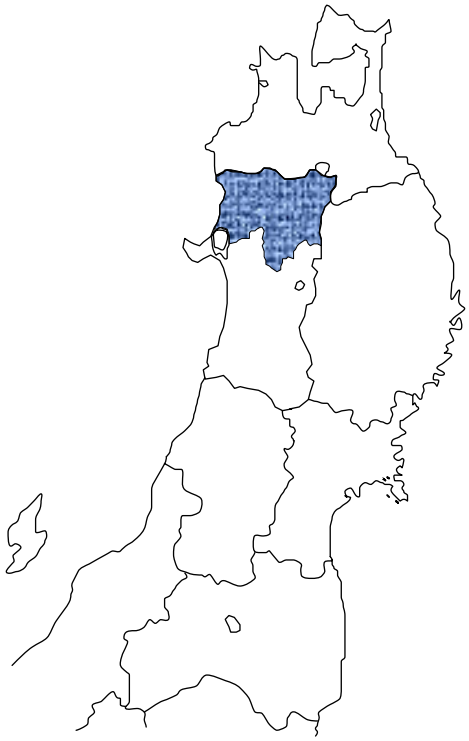
米代川流域地方拠点都市地域
基 本 計 画



平成１９年７月

米代川流域地方拠点都市地域

大館市・能代市・鹿角市・北秋田市

小坂町・三種町・八峰町・藤里町

目　次

第１章　地方拠点都市地域にかかる整備の方針に関する事項　・・・・・・・・・・　１
１．１　地方拠点都市地域の構成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
１．２　地方拠点都市の現況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
１．３　地方拠点都市地域の整備の基本方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
１．４　整備の基本方向　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

第２章　拠点地区の区域及び当該区域ごとに実施すべき事業に関する事項　・・・１４
２．１　拠点地区の設定　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
２．２　拠点地区の性格　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
２．３　当該地方拠点地区の整備方針と重点事業　・・・・・・・・・・・・・・・・１５

第３章　重点的に推進すべき公共施設の整備に関する事項　・・・・・・・・・・２７
３．１　基盤施設　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
３．２　学術・文化・教養施設　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
３．３　スポーツ・レクリエーション・公園施設　・・・・・・・・・・・・・・・・２９
３．４　福祉施設　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９

第４章　重点的に推進すべき居住環境の整備に関する事項　・・・・・・・・・・３０
４．１　居住環境の動向　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０
４．２　整備の方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０

第５章　人材育成、地域間交流、教養文化活動などの活動に関する事項　・・・・３１
５．１　人材育成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１
５．２　地域間交流　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１
５．３　教養文化活動　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１
５．４　観光振興　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１

第６章　その他地方拠点都市地域整備に関し必要な事項　・・・・・・・・・・・３２
６．１　既存計画との調和　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２
６．２　環境の保全　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２
６．３　地価の安定　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２
６．４　適正かつ合理的な土地利用　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２
６．５　国土の保全と災害の防止　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２
６．６　電気通信の高度化の促進　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２
６．７　農山漁村との調和ある発展　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
６．８　地域産業の健全な発展との調和等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
６．９　周辺地域への配慮　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
６．10　事業推進体制の確保　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３

基本計画の策定にあたって

我が国においては、行政、経済等が首都圏をはじめとした大都市圏に一極集中しており、それに伴う人口の過度集中により地方の活力低下をもたらしてきた。こうした中、地域の創意工夫を活かしつつ、広域的な見地から、地方拠点都市地域について都市機能の増進及び居住環境の向上を図るための措置や、地方への産業業務施設の移転を促進するための措置等を講ずることにより、産業業務施設の再配置を促進し、地方の自立的成長の促進及び国土の均衡ある発展を目指す「地方拠点都市地域の整備及び産業業務施設の再配置の促進に関する法律」（地方拠点法）が平成４年５月に制定された。

平成５年８月に、米代川流域の３市１２町１村の１６市町村で構成された地域が、地方拠点法に基づく米代川流域地方拠点都市地域として地域指定を受けた。これに伴い、本地域全体の振興と活性化を図り、若者などの人口定住を促進する２１世紀を展望した地方拠点都市の形成を目的とした米代川流域地方拠点都市地域基本計画が平成６年５月に承認された、本地域では計画に基づき、大館能代空港、大館地区多目的ドーム、能代山本スポーツリゾートセンター、鹿角冬季国体スキー場等の整備をはじめ、多くの施設整備が図られてきたところである。

一方、この間、日本経済の低迷は地方を取り巻く環境に大きな影響を与え、地方の人口減少などにより大都市圏への一極集中を加速させた。

また、平成１７年、平成１８年の合併により、１６市町村から４市４町の８市町村となったことから計画の見直しが必要となった。

計画では、中心都市である大館市、能代市、鹿角市及び北秋田市を核に、小坂町、三種町、八峰町及び藤里町の周辺４町村で米代川流域地方拠点都市地域を形成し、大館能代空港、その他公共交通機関の活用により、北東北の拠点地域として、「職・住・遊・学」の備わった総合的な生活空間の創造を目指すものである。

第１章　地方拠点都市地域にかかる整備の方針に関する事項

１．１　地方拠点都市地域の構成

（１）地方拠点都市地域の名称

米代川流域地方拠点都市地域

（２）中心都市名

大館市・能代市・鹿角市・北秋田市

（３）地方拠点都市地域の構成

本地域は、中心都市である大館市、能代市、鹿角市、北秋田市ほか、秋田県北部の小坂町、三種町、八峰町、藤里町の４市４町で構成する。

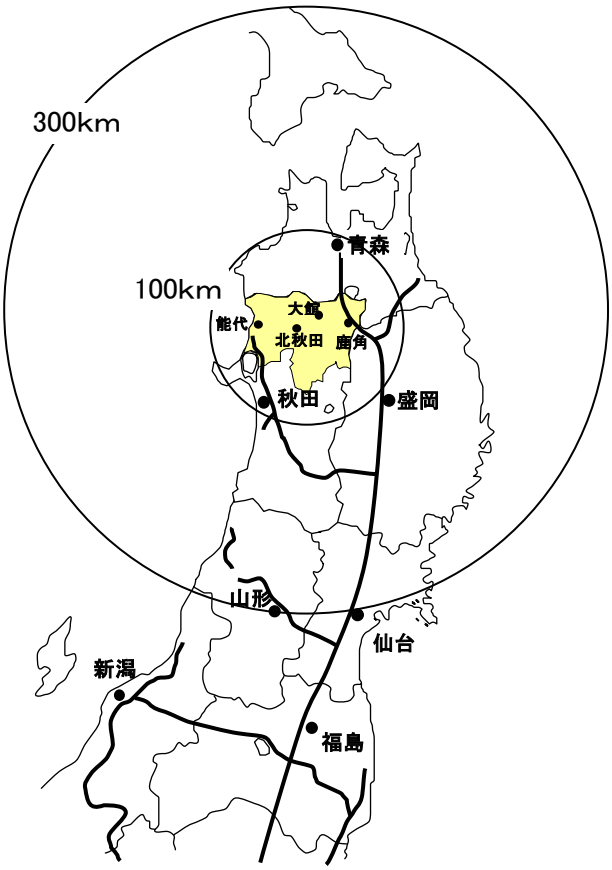
地方拠点都市地域の構成

構成市町村	人口（人）	面積（k㎡）	備　考
大館市	82,504	913.70	H17．6．20合併（大館市、比内町、田代町）
能代市	62,858	426.74	H18．3．21合併（能代市、二ツ井町）
鹿角市	36,753	707.34	
北秋田市	40,049	1,152.57	H17．3．22合併（鷹巣町、森吉町、合川町、阿仁町）
小坂町	6,824	178.00	
三種町	20,438	248.09	H18．3．20合併（琴丘町、山本町、八竜町）
八峰町	9,012	234.19	H18．3．27合併（八森町、峰浜村）
藤里町	4,348	281.98	
計	262,786	4,142.61	

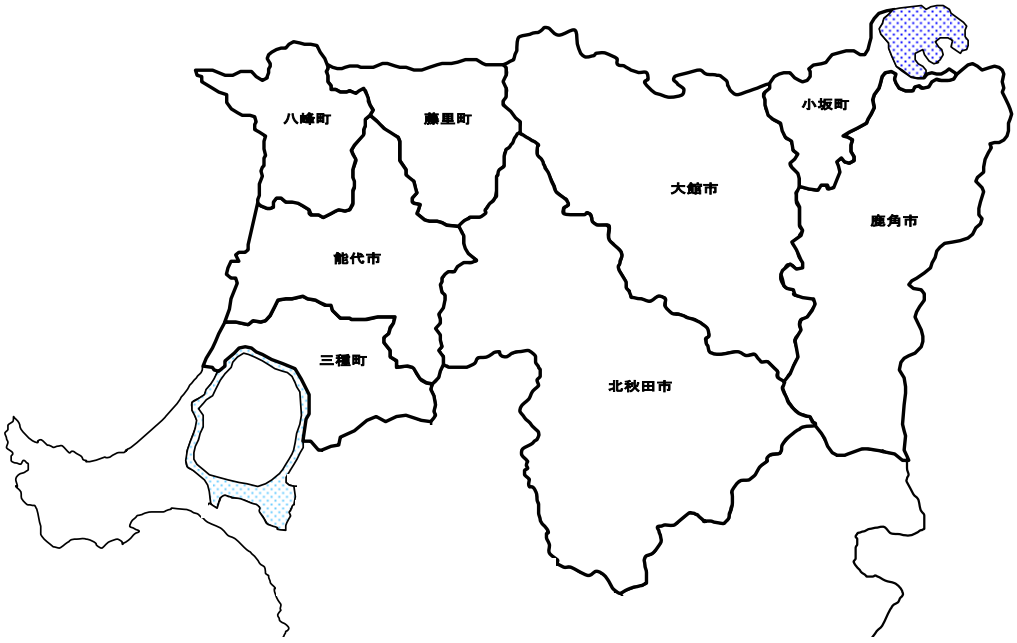
（資料：平成17年国勢調査）

１．２　地方拠点都市の現況

位置図



圏域図



（１）自然環境

米代川流域は、河口を日本海、三方を出羽丘陵、奥羽山脈、白神山地に囲まれており、肥沃な土地によって豊かな水田、畑地や森林に恵まれている。

気象状況は積雪の多い寒冷地であるが、山間部の米代川上流と日本海に面する下流とでは若干異なる。上流域は、奥羽山脈、出羽丘陵の内陸部に位置するため、年間の気候較差が大きく、典型的な内陸性盆地型である。特に１月、２月の平均気温は東北でも低いほうで、降雪期間が１１月下旬から翌年３月までの長期間に及ぶ積雪寒冷地帯である。一方、下流域は対馬海流の影響で夏期において比較的高温となるほか、冬期は上流域に比べて積雪こそ少ないものの、季節風は強い。

（２）人口動態

本地域の人口は２６２，７８６人（平成１７年国勢調査）で、中心４市の人口は、２２２，１６４人となり、地域全体の８４．５％を占めている。

構成市町村の人口推移

構成市町村	平成17年(人)	平成12年(人)	人口増減率(%)	備　　考
大館市	82,504	86,288	-4.4	
能代市	62,858	65,237	-3.6	
鹿角市	36,753	39,144	-6.1	
北秋田市	40,049	42,050	-4.8	
小坂町	6,824	7,171	-4.8	
三種町	20,438	22,112	-7.6	
八峰町	9,012	9,698	-7.1	
藤里町	4,348	4,708	-7.6	
計	262,786	276,408	-4.9	

（資料:国勢調査）

本地域の人口増減率は４．９％の減少である。減少率が最も高いのが三種町、藤里町の７．６％で、八峰町も７．１％と高く、中心都市では、鹿角市が６．１％と最も高くなっている。また、人口構成は少子高齢化が進んでおり、年少人口では、三種町、八峰町、藤里町の減少率が高くなっており、高齢人口では、能代市の増加率が高くなっている。

構成市町村の3年齢区分人口

構成市町村	0～14歳			15～64歳			65歳以上		
	平成17年（人）	平成12年（人）	増減率（%）	平成17年（人）	平成12年（人）	増減率（%）	平成17年（人）	平成12年（人）	増減率（%）
大館市	10,316	11,585	−11.0	48,314	53,134	−9.1	23,816	21,527	10.6
能代市	7,468	8,436	−11.5	36,987	40,226	−8.1	18,396	16,572	11.0
鹿角市	4,640	5,366	−13.5	20,848	23,299	−10.5	11,265	10,452	7.8
北秋田市	4,459	5,242	−14.9	22,421	24,665	−9.1	13,160	12,141	8.4
小坂町	796	862	−7.7	3,779	4,226	−10.6	2,249	2,080	8.1
三種町	2,355	2,950	−20.2	11,842	13,226	−10.5	6,241	5,936	5.1
八峰町	1,005	1,260	−20.2	5,060	5,664	−10.7	2,947	2,774	6.2
藤里町	417	523	−20.3	2,387	2,710	−11.9	1,544	1,475	4.7
計	31,456	36,224	−13.2	151,638	167,150	−9.3	79,618	72,957	9.1

（資料:国勢調査）

（３）土地利用

土地利用の構成比は、耕地９．０％、宅地１．５％、山林７７．５％となっている。能代市と三種町では耕地の割合が高い。地域の宅地は１．５％と、割合としては低くなっており、山林の占める割合が高くなっている。

土地利用

構成市町村	総面積（㎢）	耕地		宅地		山林		その他	
		面積（㎢）	構成比（%）	面積（㎢）	構成比（%）	面積（㎢）	構成比（%）	面積（㎢）	構成比（%）
大館市	913.70	79.00	8.6	17.70	1.9	701.48	76.8	115.52	12.6
能代市	426.74	77.20	18.1	15.43	3.6	248.63	58.3	85.48	20.0
鹿角市	707.34	67.20	9.5	10.21	1.4	553.43	78.2	76.50	10.8
北秋田市	1152.57	66.50	5.8	10.62	0.9	965.34	83.8	110.11	9.6
小坂町	178.00	8.95	5.0	2.44	1.4	141.98	79.8	24.63	13.8
三種町	248.09	59.90	24.1	6.01	2.4	133.50	53.8	48.68	19.6
八峰町	234.19	21.40	9.1	2.53	1.1	186.41	79.6	23.85	10.2
藤里町	281.98	10.30	3.7	1.05	0.4	239.31	84.9	31.32	11.1
地域	4142.61	390.45	9.4	65.99	1.6	3170.08	76.5	516.09	12.5

（資料: 平成18年度版 秋田県市町村要覧）

（４）都市機能

中心４都市には、それぞれ県地域振興局、総合事務所、公立病院など公的施設や大規模店舗、金融機関などが集中しており、大館市では土地区画整理事業が、鹿角市と北秋田市では総合病院整備事業が進められている。また、能代市では能代港の整備促進に取り組んでおり、それぞれ都市機能の充実が図られている。

（５）交通体系

本地域の中心に位置する北秋田市には、平成１０年７月に大館能代空港が開港し、東京便、大阪便が就航しており観光をはじめとする地域間の交流促進や経済活動の促進に大きな役割を果たしている。

高速交通網では、日本海沿岸東北自動車道が一部供用となっており、現在も整備が進められている。一般道では、日本海沿岸東北自動車道の一部供用に伴い、アクセス道の整備も進められている。一般国道では、国道７号、国道２８５号、国道１０３号が地域内を横断しており、県中央をはじめ青森県、岩手県との玄関口として交流促進の重要な役割を果たしている。

鉄道はＪＲ奥羽本線、花輪線及び五能線が地域内を運行している。さらに、県北部と県南を結ぶ内陸縦貫鉄道も運行されており、拠点地域内外の交流に大きな役割を果たしている。

（６）産業構造

①産業就業人口

本地域内の産業就業人口は第３次産業の比率が５割を超えており高くなっている。

産業大分類別就業者数

構成市町村	就業者数（人）					構成比（%）		
	1次	2次	3次	分類不能	合計	1次	2次	3次
大館市	4,105	12,766	24,489	26	41,386	9.9	30.8	59.2
能代市	3,097	9,492	18,751	25	31,365	9.9	30.3	59.8
鹿角市	3,160	6,280	10,217	6	19,663	16.1	31.9	52.0
北秋田市	2,960	6,915	10,826	8	20,709	14.3	33.4	52.3
小坂町	350	1,325	1,603	1	3,279	10.7	40.4	48.9
三種町	2,418	3,857	5,057	6	11,338	21.3	34.0	44.6
八峰町	1,081	1,894	2,065	0	5,040	21.4	37.6	41.0
藤里町	458	823	946	4	2,231	20.5	36.9	42.4
合計	17,629	43,352	73,954	76	135,011	13.1	32.1	54.8

（資料：平成12年国勢調査）

②農業

本地域の農業は、稲作が中心であるが、果樹や野菜などの栽培も盛んに行われており、主なものとして梨、りんご、メロン、ホップ、ねぎ、山うど、みょうが、とんぶりなどが挙げられる。

また、県内でも畜産が盛んな地域であり、全国的に有名な「比内地鶏」の産地を有し、年々出荷額が増加している。鹿角市、小坂町では家畜排せつ物の完全堆肥を用いた地域資源循環型農業やトレーサビリティシステムの積極的導入により、安全・安心で高品質な農産物づくりとブランド化を進めており、「八幡平ポーク」や「桃豚」は高い評価を得ている。

③林業

本地域の山林面積は、７０％を超えており、県内においてもその割合は高く豊富な森林資源を有する林業地域となっている。今日林業の置かれている環境は厳しくなっているものの、秋田杉を加工した集成材など、高付加価値材の安定供給を図るための施策の展開により、国産材の供給地域としての再構築に向けて取り組みが行われている。

④水産業

本地域で海面漁業を行っている能代山本地域では、沿岸漁業を中心とした漁業が営まれている。特に、県の魚“ハタハタ”をはじめとして各魚介類の増加を目指して、「つくり育てる漁業」を推進している。

⑤鉱工業

鉱工業については、昭和６０年代に鉱山の閉山が相次ぎ、唯一稼動していた小坂町の温川鉱山も平成６年に閉山となった。

このような状況の中、新たな鉱山技術の活用が模索され、平成１１年に旧米代川流域地方拠点都市地域に阿仁町、上小阿仁村を加えた１８市町村（合併前市町村数）が厚生大臣・通商産業大臣から「秋田県北部エコタウン計画」の承認を受け、資源循環型社会の構築に向かっての事業が開始された。

また、平成１８年には能代港が、国の総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）に指定されている。

今後も、港や高速道路、空港などの高速交通体系の利活用の促進や、鉱山関連基盤の活用による金属リサイクル産業の推進と、家電リサイクル産業の振興により、新たな資源循環型産業の創出が期待されている。

⑥商業

商業では、中心都市に商業集積地があり、中心都市に隣接する各町村でも一定のエリアの商業集積がある。しかし、道路交通網の整備などに伴う郊外への大型量販店の進出に伴い、いわゆるドーナツ化現象により中心市街地の商業環境は厳しいものとなっている。

卸・小売業

構成市町村	卸・小売業年間販売額（百万円）					
	平成3年	平成6年	平成9年	平成11年	平成14年	平成16年
大館市	239,823	266,397	256,802	257,808	213,159	197,149
能代市	186,068	198,740	203,983	211,972	127,537	130,125
鹿角市	56,618	57,599	61,834	53,925	48,845	48,573
北秋田市	99,015	87,039	89,976	※51,020	40,777	43,003
小坂町	6,004	5,453	5,506	X	3,224	3,877
三種町	15,117	17,209	17,743	15,345	14,165	12,490
八峰町	6,086	6,232	6,864	6,721	8,529	4,660
藤里町	2,933	2,962	2,928	2,380	1,724	1,811
合計	611,664	641,631	645,636	599,171	457,960	441,688

※旧阿仁町分の年間販売額Xを含まない。

（資料：秋田県の商業）

⑦観光

本地域は、世界遺産で知られる白神山地をはじめ、国立公園十和田八幡平、県立公園田代岳等の高原リゾートエリアのほか、日本海に面したマリンスポーツエリアと豊富な自然が広がっている。

また、拠点都市地域内には数多くの温泉施設を有し県内でも有数の観光資源地域である。

今後は、これら多くの観光資源を活用し、観光を地域の重要産業と位置づけグリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズム、エコ・ツーリズムによる体験型・滞在型の観光地域として整備をする。

（７）市町村の状況

①大館市

「県北部エコタウン計画」との調和を図りながら、日本有数の鉱山関連技術・基盤を活用した土壌の浄化や廃棄物の再資源化・再利用などのほか、現在では、北東北三県の家電四品目（エアコン、テレビ、冷蔵庫および洗濯機）が全て大館で処理されており、資源リサイクル産業の振興が図られている。

農業においても、コンポスト堆肥の使用等により、環境と調和した持続性の高い循環型農業を積極的に取り入れている。

商工業においては、９箇所の工業団地に３２社が操業している。現在県営、市営の工業団地の未分譲面積が少なくなってきたことから、引き続き企業立地を進めていくために、工業団地の拡張や団地周辺の道路等の整備、さらには立地企業への優遇制度の充実を図っていく必要がある。

②能代市

能代地域は、「県北部エコタウン計画」の着実な進展や周辺地域のリサイクル産業の振興を踏まえ、重要港湾である能代港の整備促進と、総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）としての利活用促進に取り組んでいる。

また、これに関連した資源循環型企業の立地促進やエコマテリアル等の活用を重点的に推進している。

主要産業である農業についても、循環型農業をめざし、安全と安心、信頼を念頭に置き、地産地消、スローフード運動を促進し、消費者に身近で顔の見える取り組みを支援している。

木材産業においては、木材高度加工研究所と木材関連企業とが連携・協力して行う技術の移転、新製品の開発、木製品の需要拡大、低コスト化などへの取り組みを支援し、木材産業の総合基地づくりを促進している。

③鹿角市

個人と団体が、また市民と行政が同じ視点に立ってまちづくりを進める「共動」の理念のもとで政策を推進している。

少子高齢化が急速に進んでいることから、保育施設、高齢者福祉施設等の拡充を図ってきたほか、市民の協力を得ながら育児ボランティア活動や自治会における福祉活動の拡大を進めている。

農業においてはトマト、きゅうりなど収益性の高い作物の導入を図り特色ある複合経営の拡大に努めているほか、古くから飼養されている鹿角短角牛の生産奨励や、新しい地域の特産である桃の作付け拡大を進めている。商工業においては工場等の設置支援を単独で実施し、成果を挙

げている。また、温泉、祭りなどの多彩な観光資源に恵まれていることから観光業に力を入れており、受入体制の強化を通じて観光誘客の拡大と滞留型観光の定着、さらに地域雇用の拡大を図っている。

さらに、市民団体の活力・能力を生かして行政サービスの提供を進める「共動パートナー制度」や、行政情報化を推進するための光ファイバー網の整備など、新しい行政活動の基盤形成に向けた取組みを進めている。

④北秋田市

北秋田市の観光振興の根幹をなす森吉山を中心とした自然あふれる観光資源を活かし、秋田県の重点プロジェクトである「マタギの森へ」構想に市として積極的に参画することにより、マタギ文化を体験するスローツーリズムの先進地域として旅行者の増大が図られている。

また、秋田内陸線再生計画に基づき、乗車運動を推進するため地域住民の新たな熱意と乗車運動強化を北秋田市と仙北市の協働により、沿線地域の観光と強く結びついた取り組みとして展開している。

統合病院建設については、平成１７年９月に作成された医療整備基本構想に基づき、基本設計、実施設計を作成し、平成２１年度の開設に向け、作業を実施している

⑤小坂町

四季を通じて美しい景観を織りなす十和田湖を有し、幕末期から鉱山町として栄えてきた歴史を持つ、鉱山文化の漂う町である。鉱山町として培われてきた経験や技術、十和田湖の自然、産業文化遺産としての康楽館、小坂鉱山事務所などの基盤を背景に、誇れる、強い、やさしい町を基本目標に、２１世紀にふさわしい、町民だれもが安らぐ町、環境に配慮した町「エコライフ・タウン」の形成を目指した事業・構想を展開している。

環境分野については、「小坂町エコタウン構想」に基づき、鉱山関連技術の活用による工業製品から金属を再生するリサイクル産業を推進し、一方では、食品残渣の堆肥化や廃食用油のＢＤＦ(軽油代替燃料)化など、資源循環型社会の構築に向けた取り組みを推進している。

⑥三種町

農業を基幹産業とする三種町は、メロンやジュンサイ、梅などの特産品を全国ブランドとしての確立をめざす一方で、直売所を中心とした地産地消により生産者と消費者との距離を縮め、食品の安全と安心、信頼を基軸とした農業に取り組んでいる。

観光振興に関しては、伝説と信仰の山「房住山」や縄文時代の遺跡、海水よりもしょっぱい森岳温泉、そして快水浴１００選に選ばれた釜谷

浜海水浴場などの恵まれた地域の特性を各種のイベントと結びつけ、地域活性化を図っている。

⑦八峰町

白神山地に代表される豊かな自然環境の保全と共生を図るために、秋田白神体験活動センター（仮称）を拠点とするエコツーリズム等の自然体験学習活動を平成１９年度から開始する。また隣接する「ハタハタ館」を大幅にリニューアルして観光客誘致につなげる。農林水産業においては、ほ場整備、林道開設、漁港整備等の基盤整備事業を重点的に展開している。生活関連の下水道においては整備率が１７年度末で８割を超え、平成２３年度の計画区域の全戸供用開始に向けて、管渠延長工事等に取り組んでいる。

⑧藤里町

藤里地域は、農村としての特色を活かし、エコ・ツーリズム、グリーン・ツーリズムの普及・定着化を図り、都市との交流を推進している。

そのなかで、農産物の地産地消や自然環境の保護・保全、歴史や文化のふれあいを図ることにより、地域の更なる発展をめざしている。

また、商工業においては、地域提案型雇用創造促進事業を活用して、都市農村間交流と観光を結び付けるための人材育成や新規起業者への研修を実施している。

１．３　地方拠点都市地域の整備の基本方針

（１）基本目標

①地域特性

・交通と経済の北東北の拠点交流都市
・環日本海交流を担う海洋交流都市
・国立公園の豊かな自然を活かした高原交流都市
・構造特区と空港を活かした密着型交流都市

②基本目標

米代川流域地方拠点都市地域では、「秋田県北部エコタウン計画」に基づき、環境にやさしい産業の創出と、豊かな自然環境を活用した、「複合交流都市圏」を創造する。

また、大館能代空港と日本海沿岸東北自動車道等の整備による交通の利便性と、各地域の多様な自然資源を活用した、観光リゾート地としての「北東北の観光拠点交流エリア」を形成する。

（２）計画の目標期間

平成１９年度から概ね１０年間とする。

１．４　整備の基本方向

（１）基本方向の展開

一般国道と日本海沿岸東北自動車道の整備により、大館、能代、鹿角そして北秋田の４つの地域が連携し、それぞれの地域の特性と潜在力を活かして、「複合交流都市」を創造する。

中心４都市には、それぞれ県地域振興局、総合事務所、公立病院など公的施設や大規模店舗、金融機関などが集積しており、国道７号等により拠点地区間を結び周辺地域との連携のもと、「職・住・遊・学」の機能が一体となった整備を図ることにより、青森県・岩手県との連接性を高め北東北の拠点都市を目指す。

また、世界遺産、国立公園等の多様な観光資源を活かすために、大館能代空港と整備された道路網及び能代港の利活用により交通と経済の拠点となる中心４都市の観光資源を活用し、観光リゾート地としての「北東北の観光拠点交流エリア」の形成を確立する。

①都市機能の拡充

中心４都市はこれまで様々な都市基盤整備が行われてきた。今後は蓄積された基盤をもとに、商工業、観光、教育など文化的な都市機能の充実を図る。また、周辺町村においても、交通アクセス網の整備により、都市的な空間づくりに取り組んでいく。

②圏域の連携性の確保

平成１０年の大館能代空港の開港により、首都圏、近畿圏との連絡時間が飛躍的に短縮され、産業立地や観光への利便性が図られてきた。

今後は、空港と周辺主要観光地を結ぶアクセス道の整備により首都圏との交流拡大を図る。

一方、道路網については、日本海沿岸東北自動車道の早期整備と一般国道、主要地方道の整備により交流拡大を図るとともに、快適な居住空間の実現を図るために市町村道の整備を促進する。

③生活の豊かさと快適さの実感

若者の地域外への流出の歯止め、定住化の促進、Ａターン受け入れ等のためにも、多様なライフスタイルを前提とした居住空間を確保するため、道路、上下水道、公園、通信情報ネットワーク基盤などの生活関連基盤の整備を推進する。

④培われた技能と資源を活かした産業の発展

「秋田県北部エコタウン計画」との調和を図りながら、日本有数の鉱山関連技術・基盤を活用した資源リサイクル産業が展開されている。

さらに、資源リサイクル施設の整備を推進するほか、資源リサイクルの関連企業や研究機関等とも連携を図りながら、日本の資源リサイクルに関する研究・教育・産業拠点の形成を目指す。

また、本地域は世界遺産の「白神山地」など特色のある自然環境と、多くの温泉施設を有していることから、これらの観光拠点を有効に活用し交流の拡大を図るとともに、地域独自の資源を最大限活用することにより、今後は、地元企業の育成と企業誘致に積極的に取組み、産業の活性化を図る。

（２）機能分担

①地域ゾーン分担

■交通と経済の北東北の拠点交流ゾーン

（大館市）

日本海沿岸東北自動車道の早期整備と一般国道及びアクセス道の整備により、北東北の中心に位置する地理的な好条件を活かし、様々な交流活動の機会の創出を図る。

さらに、エコリサイクル産業の推進と看護福祉大学による人材の育成と確保により、職・住・遊・学の多様な機能が融合した、北東北の拠点となる交流ゾーンの形成を目指す。

■環日本海交流を担う海洋交流ゾーン

（能代市・八峰町・三種町・藤里町）

伝統的な木材産業の集積や高度加工技術研究機関による先進的な取組みを行うとともに、風力発電などの新エネルギーの活用と、資源リサイクルを推進し、地域の資源を活用した産業振興を図る。

また、北部エコタウン構想との連携による、地域産業の物流拠点としての能代港の機能強化を促進し、世界遺産の「白神山地」と豊富な海洋資源を活用した、環日本海の交流を担うリゾートエリアの形成と海洋レクリエーション交流ゾーンの形成を目指す。

■史跡と国立公園の豊かな自然を活かした高原交流ゾーン

（鹿角市・小坂町）

本地域は東北自動車道が通過しており、３箇所のインターチェンジ（小坂・十和田・鹿角八幡平）により、青森・盛岡・八戸などとの都市間交流も活発である。

さらに、東北新幹線との接続や、大館能代空港の開港により、東京・大阪圏との時間短縮が図られ、観光等の産業に刺激を与えていることから、十和田八幡平国立公園や国指定特別史跡である大湯環状列石などの豊富な地域資源を活用した、高原交流ゾーンの形成を目指す。

■空港を活用した地域密着型交流ゾーン

（北秋田市）

本地域は、自然や伝統文化など観光資源に恵まれているものの、観光客の滞在時間が短く通過型の観光が主体となっている。

このため、大館能代空港の航空需要の利活用拡大に努め、空港を基点とするアクセス網の整備と、日本海沿岸東北自動車道などの交通ネットワークの整備により、地域間交流を促進するとともに、新たな観光形態であるスローツーリズムの拠点を目指し、国の第 7 次構造改革特別区域計画に認定された「阿仁マタギ特区」を活用し、地域の人材・素材を活かした体験型・滞在型観光の確立に向け、地域密着型交流ゾーンの形成を目指す。

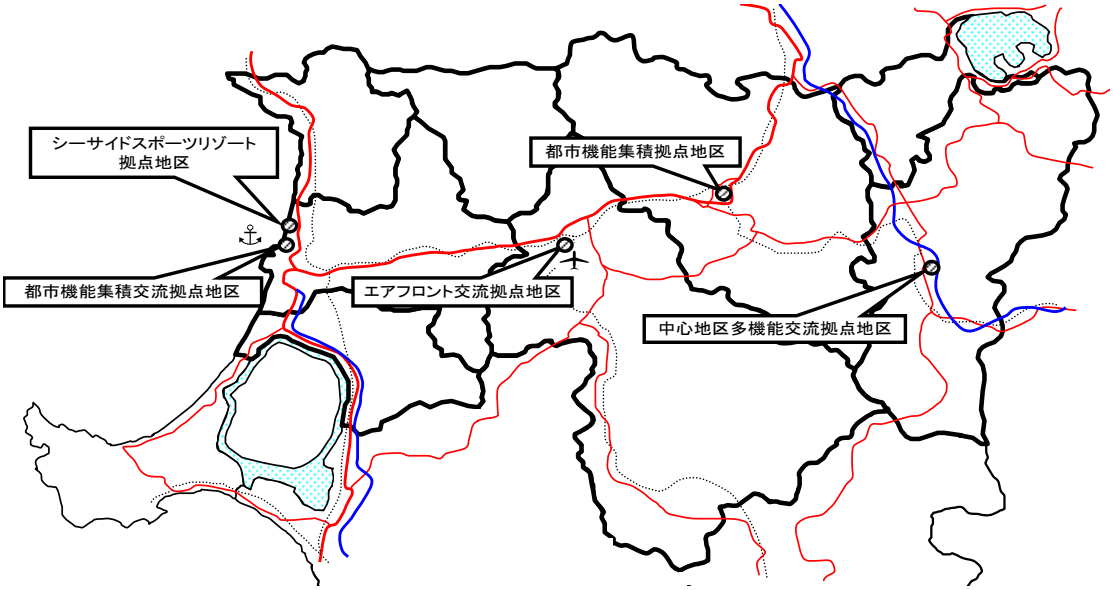
第２章　拠点地区の区域及び当該地区ごとに実施すべき事業に関する事項

２．１　拠点地区の設定

当地域全体の振興を図るため、大館市、能代市、鹿角市、北秋田市の４市の市街地等を核とし、それらを相互に連携し地域強化を目指すとともに、産業の集積をはじめ各種の都市機能の集積を促進し、秋田市をはじめ青森県及び岩手県との連携を高め、北東北の交流拠点地域としての構築を目指す。

このため、既存集積との関連、周辺地区とのアクセス、秋田県及び構成市町の構想及び計画を考慮し、効率的、効果的な整備が可能な次の５地区を拠点地区に選定した。

１．都市機能集積拠点地区（大館駅周辺地区）……　７１．４ｈａ
２．都市機能集積交流拠点地区（能代市畠町地区）……　６３．０ｈａ
３．シーサイドスポーツリゾート拠点地区
（能代市落合、河畔公園地区）……　８３．０ｈａ
４．中心地区多機能交流拠点地区（花輪駅前地区）……　６２．３ｈａ
５．エアフロント交流拠点地区（北秋田市脇神地区）……　１３．０ｈａ



２．２　拠点地区の性格

拠点地区においては、適切な土地利用と良好な景観形成への配慮を基本に、高次の都市機能と地方定住の核となるべき居住環境の整備を、総合的かつ計画的に実施することとする。

また、拠点地区における都市機能の整備によって、周辺部での産業、商業流通や観光・リゾートなどの各機能の整備を促進し、圏域の一体的な振興に資するものとする。

２．３　当該地方拠点地区の整備方針と重点事業

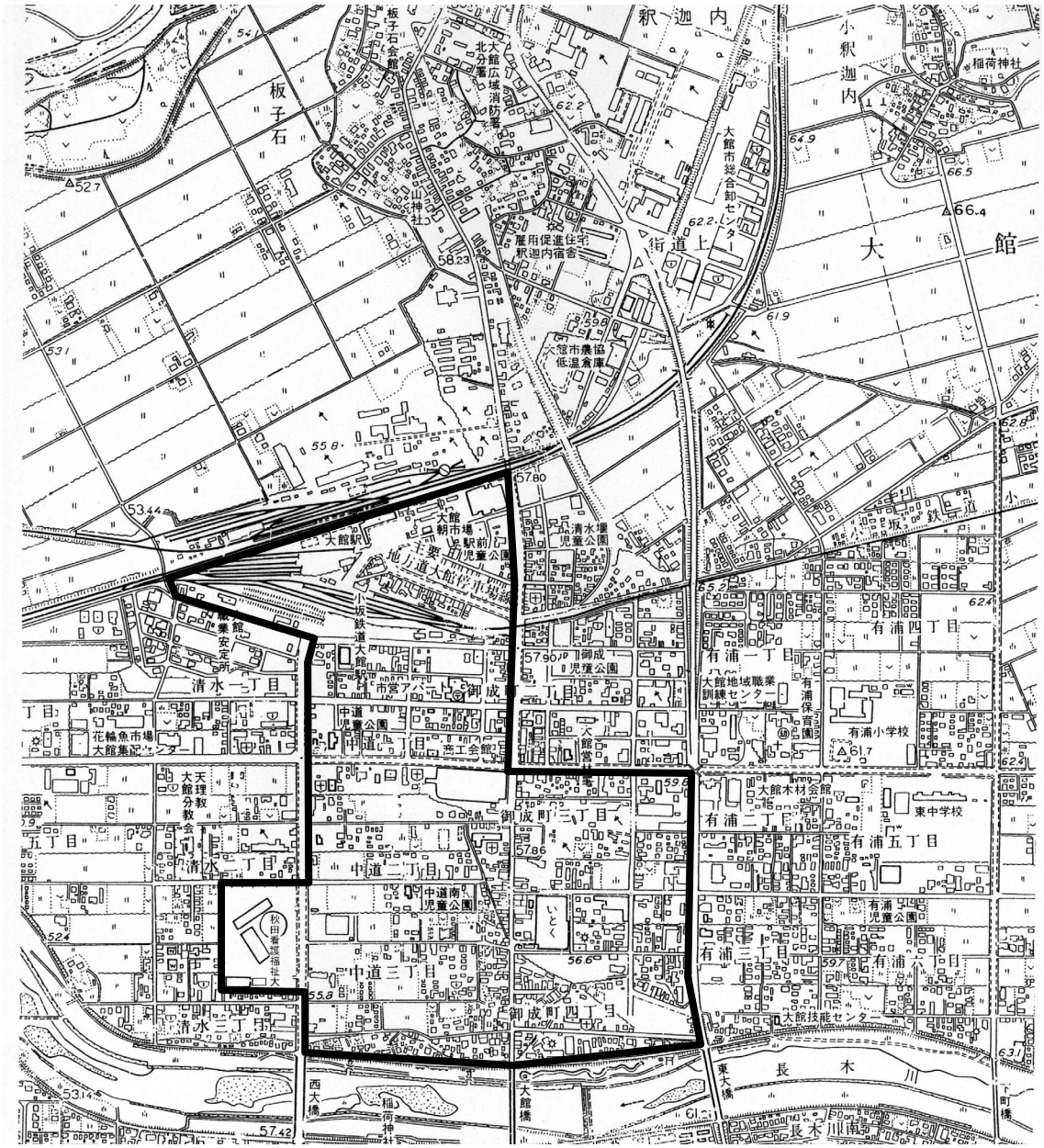
（１）都市機能集積拠点地区

１）区域

①　区域　大館駅南・御成町南地区

②　面積　７１．４ｈａ

③　区域図



２）拠点地区の現況

本地区は、鉄道ではＪＲ奥羽本線や花輪線、道路では国道７号・主要地方道大館十和田湖線のほか、日本海沿岸東北自動車道の整備にともなうアクセス道の整備により、交通の利便性に恵まれている。一方、交通体系の変化にともなう各種都市施設の郊外立地などにより、中心地域の都市機能の低下が顕著になってきている。

このようなことから、道路網・下水道等の整備による住環境の整備、看護福祉大学による人材の育成、企業誘致の促進等により、教育文化、産業支援、定住環境、交流環境の充実を図り、若者の定住を促進する必要がある。

３）整備の方針と重点事業

本地区は、国道７号と主要地方道大館十和田湖線が拠点都市地域内を縦横断していることに加え、日本海沿岸東北自動車道等の整備により、北東北の交通上の中心地区となっている。また、地区南側に地区南側に隣接する長木川がもたらす豊かな水と緑は、快適な都市空間を創り出してきた。

この有利な条件を生かしながら、企業の誘致・集積、圏域内外との交流の活発化、中心市街地の魅力ある形成を目指す。

このため、産業支援のための基盤整備や交通の要衝としての利便性をさらに向上させることによって、物流拠点としての都市機能を総合的に高めるとともに、ゆとりと潤いのある快適な居住環境を形成するため、御成町南地区土地区画整理事業及び大館駅周辺等の整備により、美しいまち並みと商業機能の複合的整備を図り、都市としてのにぎわいを創出する。

重点的に整備される産業業務施設や教養文化施設などの概要

概ねの位置	種　類	活用の方針
大館市御成町	御成町南地区土地区画整理事業	住環境の整備 幹線道路網等の整備

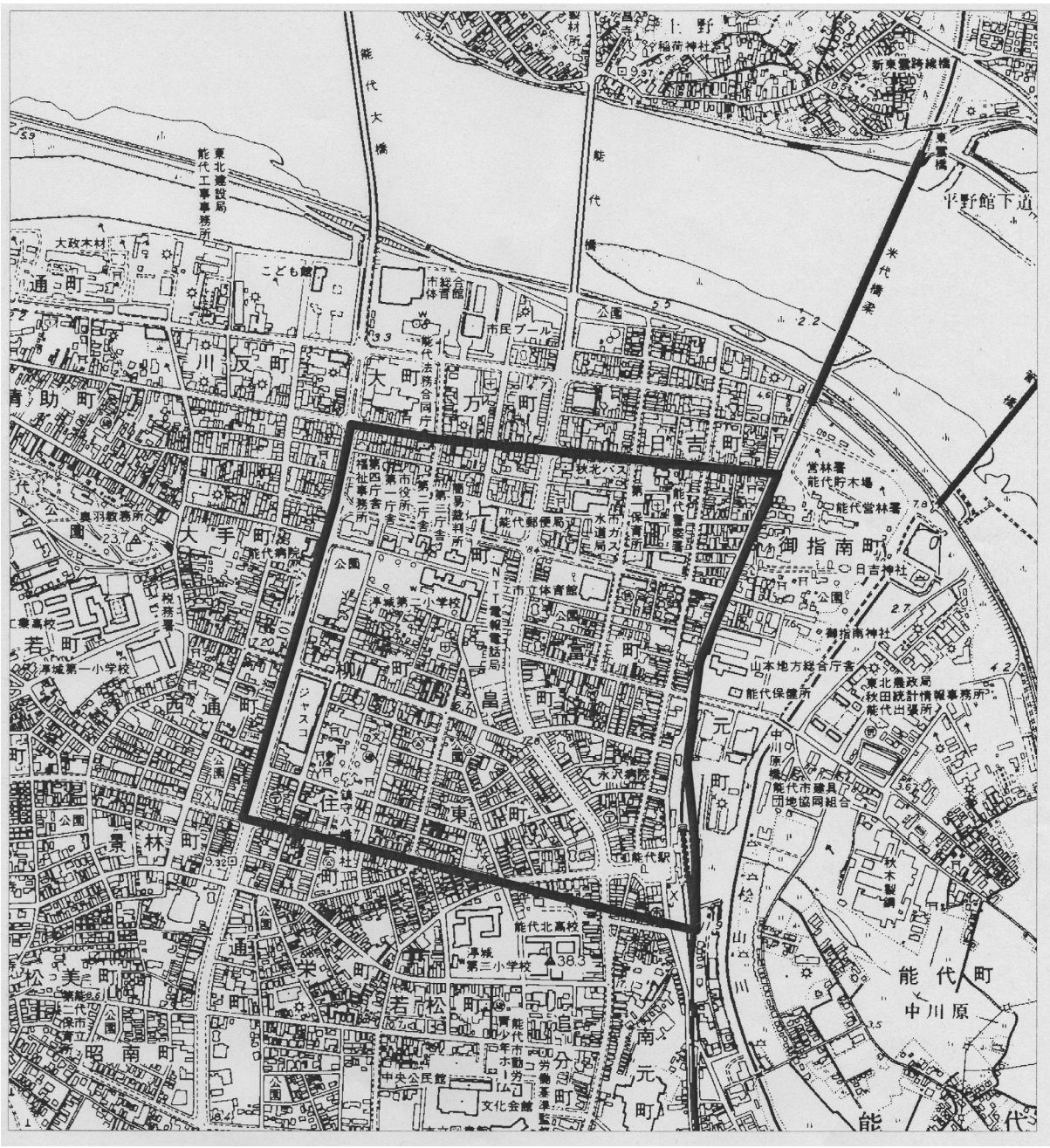
（２）都市機能集積交流拠点地区

１）区域

①　区域　能代駅前、畠町等

②　面積　６３ｈａ

③　区域図



２）拠点地区の現況

本地区は、圏域を縦断する米代川河口に近接した、能代市のほぼ中央に位置する地区であり、畠町、柳町など複数の商店街が形成されているほか、官公庁、教育施設、体育施設などの行政の中核施設が集積している。

地区内には、若者から高齢者まで快適に居住できる住宅と保育所、デイサービスセンター等を合築した複合施設「能代ふれあいプラザ」が整備されており、世代間の交流拠点としての機能を果たしている。

３）整備の方針と重点事業

中心市街地に人の流れを呼び込むため、地区内の商店街再生につながる支援等を強化し、魅力ある商店街を形成するとともに、若者や高齢者にとっても暮らしやすい住環境の基盤整備を進め、定住人口の増加を図る。

併せて、都市中心部の既存の公共施設・用地を有効に活用するとともに、官公庁、教育施設、体育施設などの公共施設が集積する、行政エリアとしての機能を維持する。

また、このまちづくりを進める際には、「木都」や「バスケの街」としての地域特性をアピールしながら、多様な人々のにぎわい、幅広い交流を創出する。

重点的に整備される住宅及び住宅地

概ねの位置	種　類	活用の方針
能代市住吉町	市営住吉町住宅 ・社会福祉施設を併設	１５０戸 定住人口の増加を図り、地区内のにぎわい創出につなげる。

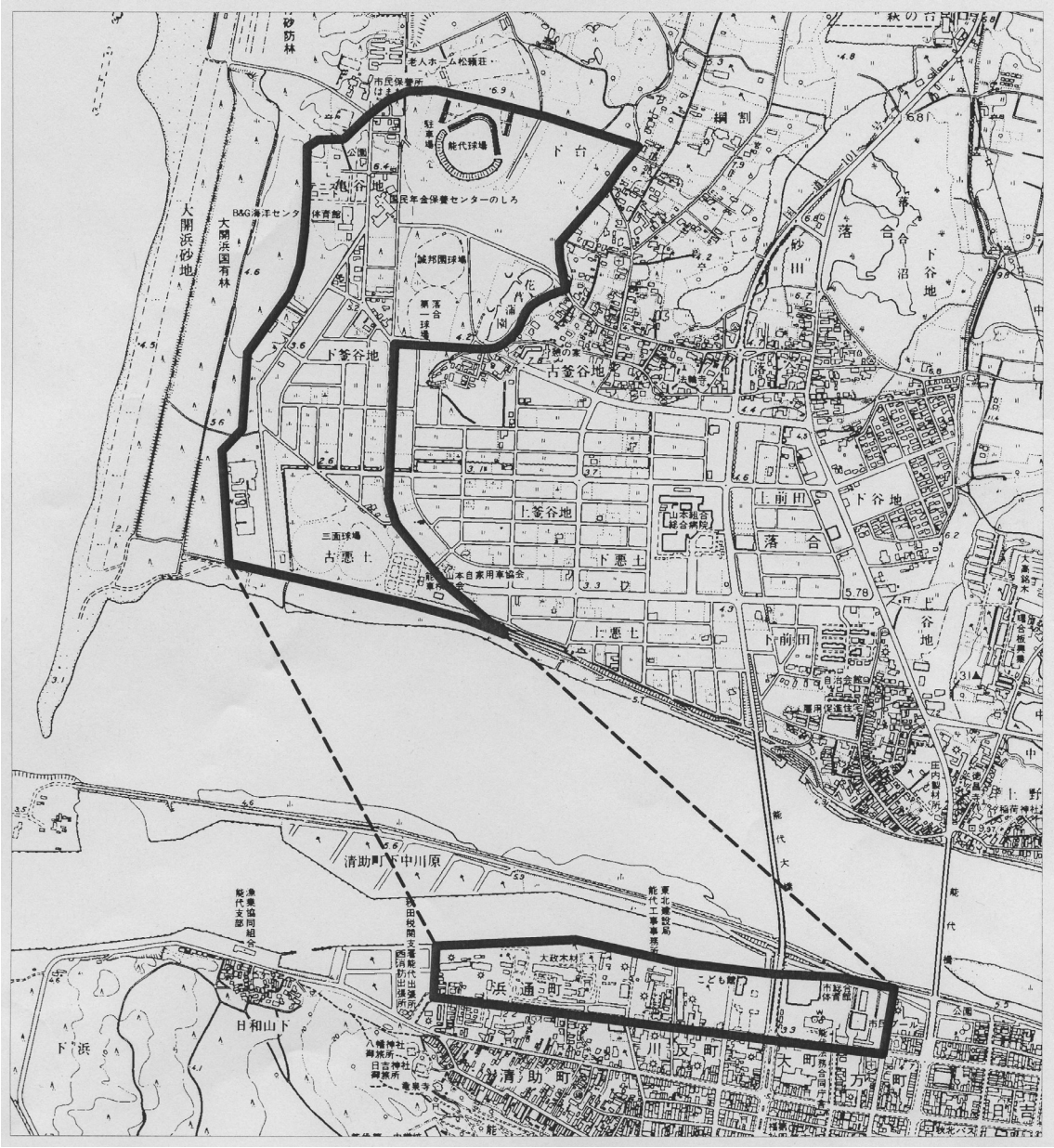
（３）シーサイドスポーツリゾート拠点地区

１）区域

①　区域　能代市落合地区、河畔公園地区

②　面積　８３ｈａ

③　区域図



２）拠点地区の現況

本地区は、米代川河口に沿った能代市の落合及び河畔公園地区から成り、ウォーターレクリエーションエリアとして利用されている米代川河口水面を含んでいる。

落合地区には能代山本スポーツリゾートセンターのほか、野球場やテニスコート等のスポーツレクリエーション施設、また、温泉を活用した保養・宿泊施設があり、河畔公園内に整備された総合体育館、市民プール等とともに、ゆとりとやすらぎを与える空間の中で一体的な整備が図られている。

今後、市民の健康意識の向上等に対応し、流域全体の活性化と交流人口の増加を図るため、その機能を一層充実する。

３）整備の方針と重点事業

地区のスポーツリゾート機能を一層充実させるため、総合運動公園や河畔公園等の整備を進め、圏域内における幅広いスポーツリゾート交流と観光機能を兼ね備えた拠点形成を図る。

また、能代山本スポーツリゾートセンター、能代球場、総合体育館等のほか、日本海や米代川などの自然のフィールドを含めて、スポーツ活動の拠点となる既存施設等を有効に活用するとともに、それぞれの有機的な結びつきを強化しながら、幅広くスポーツを体験・観戦できる環境の整備を図り、交流人口の拡大につなげる。

特に、バスケットボールについては、全国レベルの大会の開催や国際的な試合を誘致するとともに、競技人口の底辺拡大を図るなど、「バスケの街」にふさわしい取り組みを推進する。

重点的に整備される産業業務施設や教養文化施設などの概要

概ねの位置	種　類	活用の方針
能代市落合字古悪土	公園	多様な市民スポーツへの対応を図りながら、休養地・行楽地として来訪者へ安らぎを与える。
能代市 浜通町 川反町　外	公園	総合体育館や市民プールなどの既存施設の有効活用を図りながら、休養地・行楽地として来訪者へ安らぎを与える。

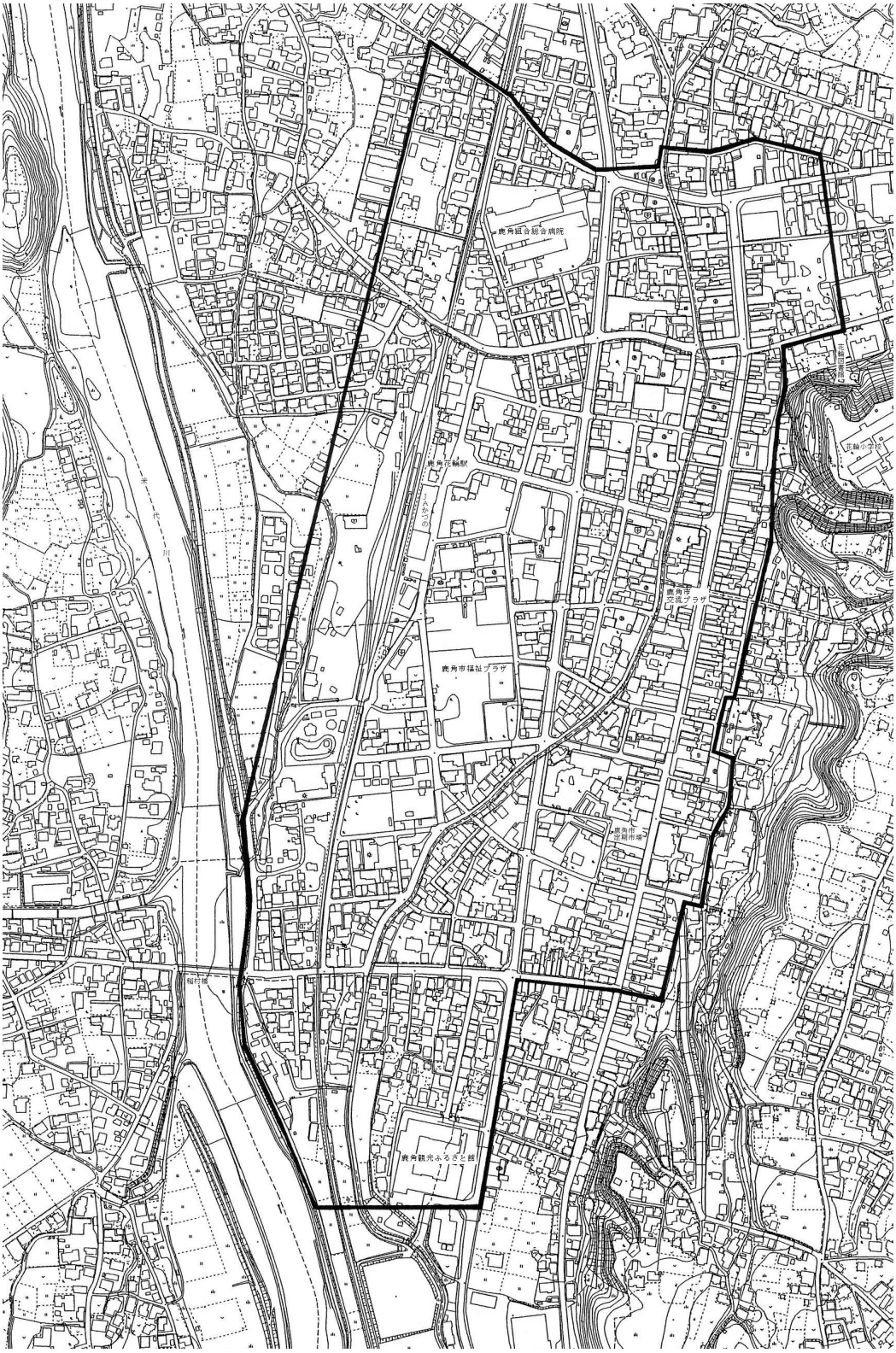
（４）花輪中心地区多機能交流拠点地区

１）区域

①区域　鹿角市鹿角花輪駅周辺地区及び花輪通り線商店街

②面積　６２．３ｈａ

③区域図



２）拠点地区の現況

本地区は、東北自動車道八幡平インターチェンジに近接しているほか、中心部にJR花輪線鹿角花輪駅が位置しており、拠点都市地域の東側の玄関口となっている。

近年、街路の拡幅整備が行われるなど近代化が進んでいるが、駐車場の整備が遅れているなど自動車利用客の増大への対応は充分とは言えない。また、区域内にある地域中核病院の郊外移転が予定されており、周辺商店街への影響が予想されていることから、跡地周辺の振興が課題となっている。

空洞化の進行は懸念されているが、空き店舗を利用した出店が比較的多く見られるほか既存大型店舗の改築が行われるなど、依然として市内の中心商業地区として活発に機能している。また、近年、地区内に複合型福祉施設である市福祉プラザや、ＩＴと音楽活動の拠点である市交流プラザがオープンするなど、地区の新たな顔となる公共施設の整備が進んでいる。

鹿角観光ふるさと館は「道の駅」として多くの観光客を集めているが、地区全体として観光客の滞留につながる整備が不十分である。また、地区に近接している花輪スキー場を中心に全国規模のスポーツ大会が盛んに開催されており、観光やスポーツを通じた交流拡大と、交流を活かした地区の活性化が課題となっている。

３）整備の方針、導入機能及び実施すべき事業の概要

地域中核病院跡地は地区全体の活性化を図る上でも重要な位置にあることから、広大な面積を生かし、屋外イベントスペースや、駐車場・駐輪場施設等を備えた多目的公園を整備する。

また、同跡地において、図書館機能を中心にした複合型文化交流施設の整備を進め、同跡地を地区内外の交流拠点として活用する。情報通信基盤の整備が進み、インターネットを利用した情報収集が一般化する中で、図書館に対して新しい役割が求められていることから、図書館機能については、高い情報受発信機能を持ち、地域の新たな学習・情報の拠点としてふさわしいものとする。

道の駅との連携を図りながら地区における観光客の滞留を図ることが、地区の振興を図る上で、また、「鹿角観光」を掲げる本市全体の観光施策の上で重要である。そこで、現在の定期市場が地域住民だけでなく観光客に対しても魅力あるものとなるよう、定期市場周辺に残る歴史的建造物と調和した空間として再整備する。

まちづくり会社や商業者団体等との協力と役割分担のもと、自動車利用客の利便性向上のための歩行者環境整備、空き店舗の利活用策を促進する。

重点的に整備される産業業務施設や教養文化施設などの概要

概ねの位置	種　類	活用の方針
花輪八正寺	コミュニケーションイベントエリア	賑わいのあるイベント空間を創出すると共に、商店街の利便性向上に資する駐車場・駐輪場を整備する。
花輪八正寺	学習・交流活動拠点施設	高い情報受発信機能を持つ図書館施設を備えた交流拠点とする。
花輪上花輪	市民・観光市場	周辺市街の景観と調和を図り、観光客にもアピールする施設としてリニューアルする。

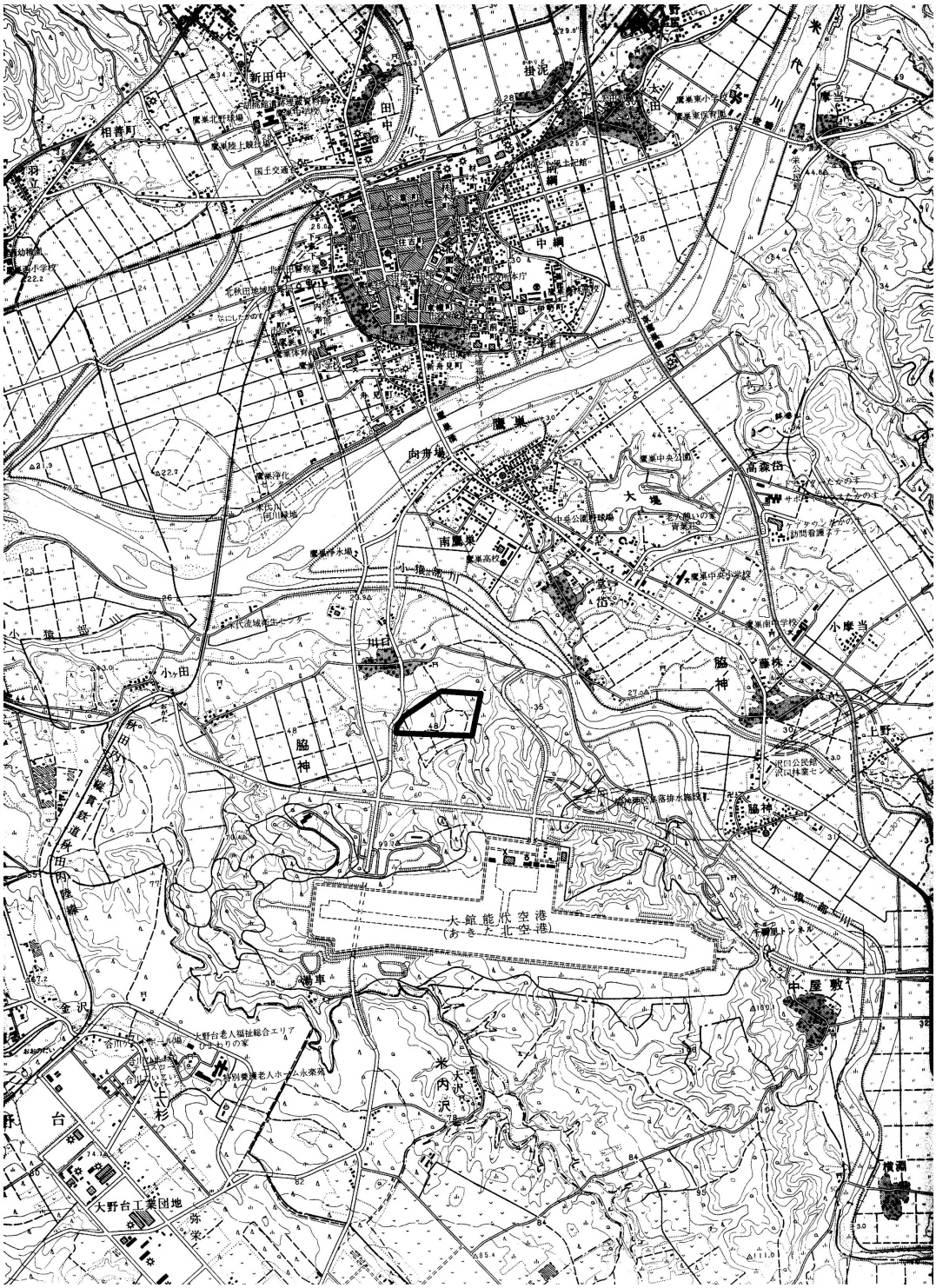
（５）エアフロント都市交流拠点地区

１）区域

①区域　北秋田市脇神

②面積　１３．０ｈａ

③区域図



２）拠点地区の現況

本地区は、流域地域のほぼ中央に位置するとともに、平成 10 年に開港した大館能代空港は、年間 15 万人以上の人が利用しており、秋田県北部の空の玄関口となっている。さらに、日本海沿岸東北自動車道の延伸により、大都市圏と直結した交流の機会が増加することが予想されることから、空港やＩＣからのアクセスの強化を図っていくことが必要である。

また、森吉山、阿仁川、小又川、北欧の杜などの豊かな自然環境は、都市居住者にとっては、癒しややすらぎをもたらす魅力的な自然環境であり、都市との交流の核として大きなポテンシャルをもっている。

３）整備の方針、導入すべき機能及び実施すべき事業の概要

大館能代空港の利活用及び日本海沿岸東北自動車道の延伸などにより、今後ますますの流域地域内の空の玄関口としての機能が必要とされている。高速交通体系の利便性を最大に活かし、流域内外におけるビジネス・観光・交通の拠点として整備を図っていく必要がある。

特に、流域が有する豊かな自然環境、歴史・伝統文化といった豊富な地域資源を観光産業として活用するため、スローツーリズムの拠点としての宿泊施設等の整備を推進し、積極的な交流と連携を進めていくことが求められる。

また、大館能代空港を中心とした道路交通網の整備は、商業や観光の振興、地域間交流にも密接に結びついていることから、より一層の整備が求められる。

重点的に整備される産業業務施設や教養文化施設などの概要

概ねの位置	種　類	活用の方針
北秋田市脇神	宿泊施設	本施設を活用し、流域内外のビジネスや観光などの地域間交流の拠点として促進を図る。

拠点地区字名表

	市町村名	町又は大字名	字名
都市機能集積拠点地区	大館市	御成町	一丁目の一部、二丁目の一部 三丁目の一部、四丁目
		清水	一丁目の一部、二丁目の一部
		中道	一丁目、二丁目、三丁目
		有浦	二丁目の一部、三丁目の一部
			清水堰添の一部
都市機能集積交流拠点地区	能代市	上町 畠町 富町 柳町	全域
		住吉町 東町 元町 万町 日吉町 大町	一部
シーサイドスポーツリゾート拠点地区	能代市	落合	下台の一部 亀谷地の一部 下釜谷地の一部 古悪土の一部 大開の一部
		浜通町 川反町 大町 万町	一部
中心地区多機能交流拠点地区	鹿角市	花輪	上花輪の一部、中花輪の一部 下花輪の一部、堰向 上中島の一部、下中島の一部 八正寺の一部、下中島の一部 堰根川原の一部 高井田の一部、牛川原の一部
エアフロント交流拠点地区	北秋田市	脇神	上金堀の一部

第３章　重点的に推進すべき公共施設の整備に関する事項

本地域においては、環境にやさしい産業の創出と、豊かな自然環境を活用した「複合交流都市圏」を創造するとともに、大館能代空港と日本海沿岸東北自動車道等の整備による交通の利便性を活用した､観光リゾート地としての「北東北の観光拠点交流エリア」を形成するという基本目標の実現に向けて、以下の４つの整備方針を設定する。

①産業振興、国土保全、生活環境基盤整備の強化充実に努める。
②東京・大阪圏及び青森、岩手の隣接地域との連携強化を図るとともに、地域内の交通ネットワークの早期整備拡張を図る。
③新たな産業の創出とそれにともなう生活・交流基盤の整備を促進する。
④豊富で多様な自然環境を活かし、農山漁村の振興を図る。

３．１　基盤施設

（１）道路

本地方拠点都市の各都市間の交流を促進し、圏域の一体性と広域的な交流を促進するためには、日本海沿岸東北自動車道の早期完成が不可欠であるとともに、一般国道の整備とアクセス道及びバイパス等の整備を促進し、本地域の都市軸の形成に資する交通基盤の整備を図る。

また、中心都市以外の構成町村の各施設との連絡性を高め、さらに圏域外の地域との交流を活発化するため、国道１０１号、国道１０３号、国道２８２号、国道３４１号、国道１０５号、国道２８５号及び主要地方道等の改良事業の促進を図る。

①日本海沿岸東北自動車道未供用区間の早期整備
②国道１０３号バイパスの整備
③地域内の交流連結強化を図る主要地方道等の整備
④大館能代空港アクセス道の整備
⑤交流拠点施設や各種プロジェクト関連道路の整備

（２）鉄道

本地域の鉄道については、ＪＲ奥羽本線のスピードアップや複線化、花輪線のスピードアップと東北新幹線との接続改善などを積極的に要請するほか、秋田内陸縦貫鉄道とともに輸送力増強を図る。

（３）港湾

能代港には平成１３年に４万トン級岸壁を備えた多目的国際ターミナルが完成し、機能強化が図られ輸出入実績も増加しているものの、その９割が火力発電所の原料である石炭で占められている。今後はリサイク

ルポートとして利活用促進を図る。

（４）治水・砂防・河川

本地域には、多目的ダムとして５箇所が完成しているが、社会基盤の形成を図るため水害、土砂災害を防止し、水と緑豊かな生活環境の創造と、今後の水需要の増大に対応するため、森吉山ダム等の建設を推進する。

（５）上下水道

排水処理施設の普及等により水需要の増大が見込まれるため、安定した水の供給とライフラインの確保のため､上水道の供給区域を拡張し、未普及地区の解消を図る。

また、下水道事業については、公共下水道事業、特定環境保全公共下水道事業及び農業集落排水施設整備事業の推進により、水質保全及び生活環境の向上を目指す。

（６）産業基盤整備

本地域には、県及び市町村が整備した２３の工業団地があり、大館地区では医療器具・医薬品産業の進出にともない、県事業により工業団地の造成を予定している。今後は県北部エコタウン計画との連携により、大館能代空港や能代港及び日本海沿岸東北自動車道の整備にともない、交通利便性を活かしリサイクル産業関連企業等の誘致を促進する。

（７）情報通信基盤の整備

ブロードバンド時代に対応した高度情報通信ネットワークの基盤整備を促進し、情報受発信能力の向上を図るとともに、地域間の情報格差の是正と緊急時の連絡網の確保のため、テレビ難視聴地域及び携帯電話の不感地域の解消に努める。

（８）農林水産業基盤整備

本地域の主な産業は農林水産業であり、担い手の確保・育成を図るため集落営農組織の育成と法人化を推進するとともに、基盤整備事業等を計画的に進め農業経営環境の整備促進により、認定農業者や担い手への農地集積を促進する。また、農業経営を安定化するため野菜、果樹、花き、畜産等の複合経営を、消費者ニーズに対応した安全・安心で高品質な農産物づくりとブランド化を推進する。

漁業においては優良な漁場を有しており、漁港・漁場・漁村の一体的な整備により県の魚ハタハタを主体とした水産資源の維持・増大を図り、「つくり育てる漁業」を推進する。

また、圏域内の各漁港では、漁港の機能に加えて観光市場なども整備

し、海洋レクリエーション基地としての機能の充実を図る。

３．２　学術・文化・教養施設

本地域には、教育機関として、秋田看護福祉大学、秋田職業能力開発短期大学校、秋田しらかみ看護学校が立地しているほか、平成１７年には中高一貫校が開学し、人材育成の拠点として整備されている。

今後は、地域住民の教養の高揚を図るため、各地区に整備されている教養文化施設の連携により、生涯学習等各施設のソフト事業を充実させ、利用促進を進める。

３．３　スポーツ・レクリエーション・公園施設

能代地区には能代山本スポーツリゾート構想に基づき、スポーツ施設が整備され、大館地区には樹海ドーム、樹海体育館など大型施設が整備されている。また、各市町村においてもスポーツ・レクリエーション施設は計画的に整備されている。

今後は、本年開催の秋田わか杉国体を契機に全国大会、国際大会の誘致、開催をさらに推進するとともに、地域住民の健康増進と余暇活動に施設を気軽に利用できるよう、各施設等の情報収集、情報提供をするため、情報ネットワーク体制の構築を推進する。

３．４　福祉施設

本地域の高齢化は全国平均を上回る速度で進行しており、総人口は減少しているものの、高齢者人口は増加を続け４人に１人が高齢者である。

このような状況の中、秋田県北部老人福祉エリアを中核施設として、各市町村においても社会福祉施設整備が進んでいる。

今後は、これらの施設を中心に、看護福祉大学による人材の確保と社会福祉協議会をはじめ各種ボランティア団体との連携により、介護予防を中心とした福祉サービスの充実を図る。また、すべての高齢者が健康で生きがいのある生活が出来るよう、産業や教育機関等との連携により、高齢者の知恵や経験を社会に還元する仕組みづくりを進める。

第４章　重点的に推進すべき居住環境の整備に関する事項

４．１　居住環境の動向

本地域は、持ち家率が県平均を上回っているものの、近年の住宅の新設数は横ばいからやや減少傾向で推移している。構造的には、木造住宅が８割を占めているが、最近では、鉄筋コンクリート造・鉄骨造の耐震性に優れた住宅建設も増えている。

これまで、中核都市及び構成町村においては、定住促進のために公営住宅整備を行ってきたが、老朽化した公営住宅もあり、今後は予想される人口減少と少子高齢化に対応するため、バリアフリー化など高齢者や障害者へ配慮した住環境整備の必要性が高まっている。

４．２　整備の方針

若者の地域外流出の歯止め、定住化促進、Ａターン者の受け入れ等を推進するため、魅力ある就業機会の創出を促進するとともに、ゆとりと潤いのある住環境の整備に努める。また、環境問題、災害対策、周辺環境との調和に留意し、今後は、都市機能の適正立地を誘導しながら、多様化する住宅需要に対応した公営住宅等の建て替えなど、良質で快適な生活環境の実現を目指す。

第５章　人材育成、地域間交流、教養文化活動などの活動に関する事項

本地域の基本目標である、環境にやさしい産業の創出と、豊かな自然環境を活用した「複合交流都市」を創造し、大館能代空港の活用と日本海沿岸東北自動車道の早期整備により、各地域の多彩な自然資源を活用した、観光リゾート地としての「北東北の観光拠点交流エリア」の形成を目指すにあたり、人材育成、地域間交流、教養文化活動及び観光の振興などを推進する。

５．１　人材育成

人材の育成確保については、拠点都市地域の振興を推進するため、各分野の指導者の育成と高齢者の社会参加の促進を図るため、生涯学習活動などの推進により、高齢者の生きがい対策の充実を図り、人材の育成確保を進める。

５．２　地域間交流

地域間交流については、平成１９年開催の秋田わか杉国体を契機に、スポーツ・レクリエーション､イベント、文化活動等を通じた地域内交流や地域外の各都市との交流を多方面で推進する。

国際交流については、教育・文化面での積極的な交流を推進する。

５．３　教養文化活動

教養文化活動については、地域の活動団体、文化団体などの取り組みを支援し、大館市の曲げわっぱ、北秋田市の大太鼓、能代市の春慶塗、鹿角市の縄文遺跡等のほか、地区伝統芸能など伝統遺跡文化を永く後世に継承する。

また、各地区文化施設の情報ネットワークづくりを推進し、伝統芸能フェスティバルの開催などにより、伝統文化の保存と伝承支援を行う。

５．４　観光振興

観光振興については、世界遺産をはじめとする優れた自然景観、温泉、歴史遺産、特産品、工芸品など豊富な観光資源を活用し、広域的な観光を推進し、各地区の施設の連携により、産業としての観光の充実を図る。

また、大館能代空港の開港以来、観光客の回遊性が高まってきていることから、日本海沿岸東北自動車道の早期全線開通とアクセス道等の整備により、北東北の観光拠点として、広域的な連携による観光振興を推進する。

第６章　その他地方拠点都市地域整備に関し必要な事項

６．１　既存計画との調和

本計画は、あきた２１総合計画（第３期実施計画）秋田県長期構想（元気な秋田づくり）、各市町村の基本構想、新市町建設計画、都市計画、その他法に基づく各種の計画などに配慮しつつ策定されたものであり、計画の推進においても、これらの計画との整合を図りながら進めるものとする。

６．２　環境の保全

本計画の推進に当たっては、環境保全の観点から、生活・産業排水による水質汚濁等の公害防止、自然環境の保全、文化財の保護、廃棄物の適正な処理等により環境の保全に十分配慮する。

また、秋田県北部エコタウン構想を基本に循環型社会の形成のため、土壌浄化や廃棄物の再資源化・再利用など、環境衛生施設の効果的活用によりごみの減量化とリサイクルを推進する。

６．３　地価の安定

本計画の推進に当たっては、都市機能の集積や住宅供給のための良質な土地の供給を進め、地価の安定を図るとともに、高速交通体系の整備の進展により開発等が見込まれるため、土地取引動向等の把握に努め、地価の高騰が生じないよう留意する。

６．４　適正かつ合理的な土地利用

本計画の推進に当たっては、良好な地域発展にふさわしい空間の形成と、乱開発を防止するため、国土利用計画法、その他の土地利用関係法令の適切な運用を行うことにより、適正かつ計画的な土地利用の促進を図る。

６．５　国土の保全と災害の防止

本計画の推進に当たっては、災害の発生を予防し拡大を防止するため、土地区画整理事業等により、道路、公園、緑地及び上下水道の整備等の推進により、防災構造化対策に努める。

また、治山・治水・海岸保全対策等の国土保全、多目的ダムの建設等による水資源の確保、エネルギー供給の確保と有効利用の促進を図る。

さらに、交通安全施設の整備促進等による交通の安全確保と円滑化及び地域住民生活の確保に配慮し整備を促進する。

６．６　電気通信の高度化の促進

本計画の推進に当たっては、高度情報化社会に対応した情報通信ネットワークの整備など、電気通信の高度化を図るため、関係機関との協力連携による基盤整備に努め、高度な情報サービスの提供を推進する。

６．７　農山漁村との調和ある発展

本計画の推進に当たっては、農山漁村部における集落排水施設等の生活基盤や農道・林道等の生産基盤の整備により、農林水産業の振興に配慮する。また、農林水産業の土地または水利用との調整、優良農地の確保等に努めることにより、農林水産業の健全な発展との調和が図られるよう十分留意する。

６．８　地域産業の健全な発展との調和等

本計画の推進に当たっては、基幹産業である農林水産業の地場産業の推進と、恵まれた自然環境を活かした観光産業を推進するため、地場産業との調和が図られるよう十分配慮する。

また、大館能代空港の開港と日本海沿岸東北自動車道等の整備促進及び高度情報化社会は、人、物、情報を活発にしており、地域の活性化のためにその利活用を促進する。

６．９　周辺地域への配慮

本計画の推進に当たっては、広域的な交通・情報通信ネットワークの整備や産業の振興に努めるとともに、北東北の拠点地域として周辺地域にその効果を適切にもたらすため、周辺地域への配慮に留意する。

具体的には、中心４都市を核とし、高齢化、情報化、国際化などのニーズに対応できる医療、福祉、情報・通信などの機能集積を推進するとともに、日本海沿岸東北自動車道の早期全線整備により、拠点地域内の各地区の観光拠点を結ぶとともに、青森､岩手の隣接する地域とも連携した、広域観光ルートの整備を推進する。

６．10　事業推進体制の確保

本地域の構成市町村が設置している「米代川流域地方拠点都市地域整備協議会」を中心に、国、県との密接な連携を図りながら、計画の円滑な推進に努めるものとする。